



あゆみだより

令和7年度第13号
令和7年9月16日発行
沼津市立沼津高等学校・中等部



中等部生が歴史と向き合い、未来へ踏み出す一体験から生まれた気づきー

第11号、12号に続き、夏休み中の校外活動シリーズ第3弾！

今回は中等部生4人に紙上インタビューしました。沼津市の「戦没者を追悼し平和を祈念する日」における献花、焼津青少年の家で行った静岡県主催「未来を切り拓くDream授業」、そして、沼津市主催の北方領土視察です。目的をもって臨み、多くの学びと気づきを得たことがうかがえる、素晴らしいレポートです。

戦没者を追悼し平和を祈念する日（主催／沼津市）

（1B 岩崎 朋花さん）

Q1 どのような活動をしましたか？

8月15日に広島で行われる戦没者追悼式に合わせて、沼津市民文化センターで行われた、沼津市の「戦没者を追悼し平和を祈念する日」という式典に出席し、献花を担当させていただきました。（写真参照）

私は戦時中にガダルカナル島にて戦死された曾祖父の兄弟の、遺族代表として出席させていただきました。



Q2 なぜ、参加しようと思いましたか？

戦争で亡くなった人たちのことを考えてみたいと思ったからです。私の曾祖母が戦争を経験していて、よく戦争時のことについて話してくれるのですが、話をしてもらっただけでなく、自分からきちんと戦争で亡くなった人のことを理解してもっと色々なことを考えながら話を聞きたいと思い、参加させていただきました。また、昨年戦没者追悼式に参加させていただいたのですが、式を通して昨年よりも成長したいという思いもあったので、参加させていただきました。

Q3 活動を通してどのようなことを感じましたか？

自分が生きているこの平和な時代が当たり前ではないということを実感しました。追悼式で、実際に戦争を経験した方の講話を聞かせていただいたのですが、やはり体験した人にしかわからない恐ろしさや苦労があることがわかりました。その方の講話はとても迫力があって、今まで聞いた戦争のお話の中で最もリアルに戦時中のことが感じ取れて、まるで私まで戦争を経験した気分になりました。その方が「戦争はいきなりやってきて大勢の人を奪った」とおっしゃっていたのが心に残っていて、その言葉を聞いて、明日も明後日もずっと平和とは限らないと思い一日一日を大切に生きていきたいと思いました。

Q4 どのような成長ができたと感じますか？

上記に書いたように、戦争について更に理解を深められたというのもあるのですが、それと同じくらいに挑戦することの大切さを学び、成長できたと思います。私はあがり症で、人前に立つと首や足が震えてしまうことがあるので、本当は戦没者追悼式に出るのをお断りさせていただこうと思っていたのですが、勇気を出して挑戦してみたら意外と人前に立つことも怖くないし、こうやってあゆみだよりに載せるなどの良い評価もしてもらえ、いろんな学校の人とも交流ができて、本当にいいことばかりでした。特に一緒に献花をしてくれた小学三年生の女の子が「市立沼津中等部に入って、お姉さんみたいになりたい！」と言ってくれて、参加してよかったなと心から思いました。

これからたくさん色々なことに挑戦していきたいと思います。

Q5 みなさんに伝えたいこと

この活動を通して、私は平和について、みんなできちんと考えてみてほしいと思いました。最初、戦没者追悼式に参加する前は、私の親族に戦没者はいないと思っていて、戦争についてそんなに知らなくていいと考えていましたが、この戦没者追悼式に出ることになって初めて私の親族に戦没者がいたことを知り、とても戦争が身近なものに感じられました。戦争はそれぞれの平和がすれ違くと始まるものです。だから、平和のすれ違いでまた戦争が起こらないように、そして理解を深めるために、みんなが平和について一度話し合ってみてほしいと私は思いました。

そして、もしこういう機会があったら、ぜひ自分から挑戦してみしてほしいです！きっと今まで気づかなかったことに気づいたり、色々な人に出会うことができると思います。自分が今生きている時間を大切にしていきたいと思います。

Q1 どのような活動をしましたか？

「焼津青少年の家」という研修施設に3泊4日滞在し、グループディスカッションで理想の街をテーマに話し合い、模造紙に文字やイラストを書いてまとめました。最終日には、各グループで模造紙にまとめた理想の街を発表し、他グループの発表を聞くことで、一つのテーマでも色々な意見があり、考え方の違いに気づくことが出来ました。

また、毎日様々な分野の講師の方が来てくださり、講義を受けました。講義にはパラリンピックの金メダリストの方や、火山学者の方、ふじのくに国際交流親善大使の方などが来てくださいました。



Q2 なぜ、参加しようと思いましたか？

両親に勧められましたが、最初はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、要項パンフレットを確認してみると、静岡県内の中学1、2年生の約30名が集まり寝食を共にし一緒に4日間を過ごすことになり、なんて楽しそうな研修なのだろうと思い、参加を決意しました。さらに、様々な分野の専門家の講義を受けられるというところに心が惹かれたこともきっかけです。

Q3 活動を通してどのようなことを感じましたか？



特に心に残ったのは、パラリンピックの金メダリストの杉浦佳子さんの講義です。杉浦さんは大きな事故で脳を損傷し、記憶が10分程度しか持たなくなり、会話もままならない状態になってしまいました。そしてずっと追いついていた自転車競技の夢を諦めるしかないと医師に告げられたのです。そう言われたにも関わらず杉浦さんは、絶対に諦めたくない！チャレンジし続けたい！という強い気持ちでリハビリを何回も繰り返しました。時にはもうダメだと思ったこともあったようですが、杉浦さんはなんとかその気持ちを乗り越え、無事夢の舞台に立ち、金メダルを獲得することができたのです。そのお話を聞いた時、今までで一番と言っているほど感銘を受けたので、特に印象に残りました。そして杉浦さんのお話の中でも印象深かったキーワードは、どん底に落ちたら上がるしかない！です。なぜなら、私はどん底に落ちたり良い結果が残せなかったりしたら、もうダメだ…諦めるしかないか…とネガティブな思考ばかりしていました。しかし杉浦さんのお話を聞いて、深刻な状況になっても努力と工夫を続け諦めなければきっと上手くいくと知れたからです。そのため、これからは前向きな考え方をして成功につなげていこうと思いました。

グループディスカッションでは、全く見慣れない顔の人たちでも、意見を交換したり話し合ったりすることで、例え意見がぶつかったとしてもとことん話し合い理解し合うことで仲が深まり、一つのテーマに対して皆で向き合うことが出来るんだと改めて感じられました。



Q4 どのような成長ができたと感じますか？

チャレンジ精神を高めることができたと感じます。今まで「チャレンジ」というものは怖いものであり、失敗したら恥ずかしいことだと考えていました。しかし、今回の講義を受けて、たくさんチャレンジして、たくさん失敗するという考え方、つまり当たって砕けろ！で良いんだと気が楽になりました。パラリンピックの金メダリストである杉浦佳子さんは、「失敗を恐れなくて。むしろ失敗はたくさんしたほうがいい。その失敗を分析して成功につなげるんだ！」と語ってくださいました。杉浦さんだけでなく、いろいろな講師の方の講義を受けて、話を聴く事によって考え方が変わりました。

Q5 みなさんに伝えたいこと

チャレンジということには勇気がいるし、失敗するかもという不安があると思います。ですがたくさん失敗し、なぜ失敗してしまったのかを分析することで成功につなげいくことができるので、言葉どおり失敗を成功の元にしていければ良いと私は考えます。

人生は一度きり。中高生は今だけ。今しか出来ないこと、今やらなければならないことを先延ばしにせず、失敗しても失敗に立ち向かい、失敗をも味方につけ、自分らしく生活しましょう。

Q1 どのような活動をしましたか？

- 1 バスで羽田空港へ→飛行機で中標津空港へ→開陽台見学→裏摩周湖見学
- 2 バス納沙布岬視察→エトピリカ船内見学→根室市役所訪問（市長表敬訪問・高校生出前講座）→北方四島交流センター（二・ホ・ロ館）視察→根室国後間海底電話線陸揚施設見学
- 3 元島民語り部講話→標津北方領土館視察→羅臼郷土資料館見学→羅臼国後展望塔見学→知床羅臼ビジターセンター→羅臼漁港（昆布体験）
- 4 相泊見学→瀬石温泉見学→しおかぜ公園見学→標津サーモン科学館見学→飛行機で羽田空港へ→バスで沼津へ

Q2 なぜ、参加しようと思いましたか？

北方領土について学んだことはあったけれど、実際にどういう状況か深くはわかっていなかったの、現地に視察に行って、しっかりと知って、学んでいきたいと思ったからです。（Y）

北方領土問題について、特に興味があったわけではありませんが、なぜ長年にわたって領土問題が解決していないのか、現地の人々はどのような意識なのかと気になったからです。

また、社会の授業で北海道の生活や文化は学んでいましたが、実際に現地に行って見てみたいと思ったからです。肌で感じる沼津との違いを体験してみたいと思いました。（N）

Q3 活動を通してどのようなことを感じましたか？

実際に北方領土を見たり、学んでいく中で、北方領土の自然の豊かさや、北方領土の問題について詳しく学んだりして、自分が思っていた以上に大きな問題で、北方領土の大切さを知りました。そこで、北方領土に興味がなかったけれど、興味を持ち、できるだけ早くの返還をしてもらいたいと思いました。（Y）

実際に納沙布岬に行ったときに、歯舞群島との近さに驚きました。事前に配布されていた資料で数値での距離は知っていましたが、実際に見てみると手が届きそうなほど近かったです。納沙布岬から歯舞群島の一歩近い貝殻島という島まではたったの3.7kmしかなく、この距離は兵庫県の本州側から淡路島までの距離よりも短いそうです。バスで海沿いを移動している間にも、国後島をずっと眺めることができました。

今回は元島民の方の話を聞くという貴重な体験もさせていただきましたが、「今住んでいるロシアの人にとっても北方四島は故郷なので、ただ取り返すのではなく一緒に住めるようになりたい」とおっしゃっているのを聞いて、領土問題への意識が変わりました。

また、北海道はとても寒かったです。沼津とは自然環境がまったく違い、僕は上着を着て過ごしました。バスで道を通っていると、すぐ近くでウシやシカを見ることができ、うれしかったです。（N）

Q4 どのような成長ができたと感じますか？

北方領土問題について詳しく学んだり、現地でお話を聞いたりして、自分が知らなかったことを新しく知ったり、知っていたことについても、より深く学べたりして、視察前よりも北方領土のことに詳しくなれたと思います。（Y）

今まで僕にとって北方領土問題は、テストでいい点をとるために身につける知識でしかありませんでしたが、高校生の出前授業や元島民の方の話、資料館で学んだことを通して、より自分事として領土問題を捉えることができるようになりました。

また、初めて顔を合わせる人たちと同じ部屋で寝たりご飯を食べたりしたので、コミュニケーションをとる力などがついたと思います。（N）

Q5 みなさんに伝えたいこと

まずは北方領土がどういうものなのか調べたり聞いたりして知識を得て、関心を持ってもらいたいです。そこからよりたくさんの人に北方領土問題のことにについて知ってもらったり、解決への協力をしてもらう為に、家族や友達など身近な人に教えてあげて、多くの人に北方領土について関心を持ってもらいたいと思います。（Y）

教科書やインターネットで知ったことだけが全てではなく、実際にその地に行ったり体験してみたりしないとわからないことは多いと感じたので、自分からアクションを起こすことを大切にしたいです。

そして、北方領土問題に関心を持ってほしいです。現地の人々は、同じ日本という国にしながら、領土問題への認識に差があることを嘆いていました。みなさんの記憶から北方領土が消えてしまうことが一番恐ろしいことだそうなので、今も領土問題が続いているということを忘れないでほしいです。（N）

